



ガ。可愛すぎ、と大人気。われらがJR北海道ICカード乗車券「Kitaca」のマスコットキャラもモモンガです！正式名称はエゾモモンガで、ニホンモモンガとは別種とのこと。時々「同じく空を飛ぶムササビとどう違うの？」と訊かれますが、シロート(私)の答えは、「大きいのがムササビ、小さいのがモモンガ」です。

アイヌ語で、モモンガは「アツ」と言います。覚えるのは簡単。「アツ、モモンガ



本田優子  
(札幌大学教授)

クリツクリの瞳を輝かせて、木の洞から顔をのぞかせるモモン

今月のテーマ  
アツ(モモンガ)

Vol.95

ゆうこみゆき

なるほどアイヌ文化エッセイ

ソノコ de ソノコ



アイヌ文化のことをもっともっと話したい!

本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で執筆する

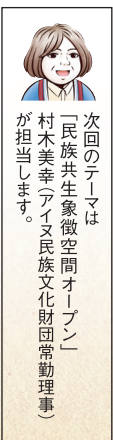
ソノコ(=お便り)形式のエッセイです。



イラスト/ 莊田悠人

だ!」(笑)。小さいという意味のボをつけて「アッポ」とも言いますが、日常的にアッカムイとも呼ばれていたようなので、小さいながらカムイ(神)としてのポジションは高かったのかもしれない。こういう昔話も残されています。

『突然夫につらくあたられるようになった女が、カツラの木の下で死のうと横たわっていたところ、樹上からアッカマイの声が聞こえた。「へび神の妹が、お前の夫を好きになって夫婦仲を悪くさせたのだ。早く帰って女を追い払わないと、夫の命が危ない」。女はへび神の妹を罰し、仲の良い夫婦に戻ることができた。』



今回のテーマは「民族共生象徴空間オープン」村木美幸(アイヌ民族文化財団常勤理事)が担当します。

ところで道央の厚真町の語源は、湿地に由来するという説や、樹皮衣アットツツの原料であるオヒヨウの内皮(アツ)に由来するという説などいろいろありますが、北海道の名付け親と言われる松浦武四郎さんは、「アツマ(モモンガが泳ぐ)すなわち、「も、か」という獣が川を泳ぎ渡ったことに由来する」との説を紹介しています(『安都麻志』)。泳いで川を渡るモモンガなんて想像もできないけど、珍しい出来事に由来するアイヌ語地名もあるので、個人的にはイチ押しイチ押しの楽しい語源解釈です。もっとも、武四郎さん自身は「も、か」の正体を知らなかったみたいで、カモシカあるいは猪ぶしのことではないかと思って書いているの(大型獣!しかもどっちも北海道にはいない)笑)。その一方で、アツポウ(アッポ)は朽木の穴に住んでいて柔弱よわいものであり、毛も和らかだと書いてます(『後方羊蹄日誌』)。武四郎さん、「も、か」は「アツポウ」のことですよ。

**ウポポイ**  
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK  
民族共生象徴空間  
北海道白老町に2020.4.24 OPEN



- 本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
- 村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団常勤理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
- 莊田悠人(しょうだゆうと):平取町二風谷生まれ。漫画家兼イラストレーター。幼い頃のアイヌ文化が原風景。東京在住。